

令和5年度第1回 市民公益活動サポートセンター運営協議会会議録

日時：令和5年8月4日（金）午前10時00分～11時25分

会場：中央公民館2階 学習室2

出席委員：山口委員、山城委員、牧野委員、山岡委員、藤崎委員、平川委員、
竹川委員、古賀委員

事務局職員：齋藤所長（自治人権推進課長）、榎副主幹、塚本主査補、
齋藤主任主事、山口支援員

次第

1. 開会
2. 議題
 - ①令和4年度事業報告
 - ②令和5年度事業計画
3. 閉会

【事務局】

「令和5年度第1回市民公益活動サポートセンター運営協議会」を開催する。
会議の開催にあたり、齋藤所長よりご挨拶申し上げます。

[所長挨拶]

【事務局】

本日出席している担当職員を紹介させていただきます。

[事務局紹介]

【事務局】

これより先の議事進行を、「佐倉市市民公益活動サポートセンターの管理及び運営に関する規則」第14条第1項に基づき、山岡委員長にお願いする。

【委員長】

（挨拶の後）規則第14条第2項に、「委員の過半数が出席しなければ開くことができない」と定められているところ、本日の出席委員は8名。10名の半数を超えているので、会議が成立していることをご報告する。

昨年度の会議で確認したが、会議録作成のため会議を録音していること、会議録は要約の形で作成することをご了承願う。

それでは、議事に入る。

①令和4年度事業報告について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

(資料に沿って説明)

【委員長】

新しい取組や、有効的な取組があったとのこと、嬉しく思う。

ただいまの説明について、質疑・ご意見がある方は、挙手をお願いします。

【委員】

「サポセンだよりを自治会回覧している」とのことだが、自治会がないところはどのようにサポセンだよりを届けているのか。

【事務局】

サポセンだよりは、自治会回覧の他に、市内の公民館や出張所、図書館等の公共施設でも配布している他、「市民公益活動情報サイト」<https://sakura.genki365.net/>にも掲載している。近くの公共施設に在庫がない場合は、お声掛けいただきたい。

【委員】

「春のサポセン交流会&佐倉城址公園再発見ツアー」に参加した。当日は大雨のため、交流会のみで、佐倉城址公園再発見ツアーは中止になった。最後の15～20分で皆さんにテキストをお渡しした。(会場の)市民体育館は成徳書院の跡にできた建物なので、成徳書院の説明を行い、終了した。

【委員】

大雨だった「春のサポセン交流会&佐倉城址公園再発見ツアー」で、北総星見隊とガールスカウトがコラボした事業の発表があった。自分は交流会には出られなかったが、参加者から「他の団体と話せてよかった」「(ツアーが中止になった時間の分)交流できて逆によかった」という感想を聞いている。

【委員長】

屋外イベントは天候に左右されるので、屋内での開催も考えていただけると良いと思う。

【委員長】

事務局から「②令和5年度事業計画」について説明願う。

【事務局】

(資料に沿って説明)

【委員長】

皆様の中で質疑やご意見があれば挙手をお願いする。

【委員】

和田地区の住民が、これらの事業に参加しているか、わかるか。私の認識では、ごく限られたメンバーしか参加していないのではないかと思っている。自治会の回覧文書も、おそらくほとんど関心を持っていないのが現状だと思う。多くの事業があり、個人的には参加したいと思うものもあるのだが…。

和田の住民に「市民公益活動サポートセンター（サポセン）」といってもほとんど通用しない。志津や臼井の住民とはギャップがある。対策が必要だと思う。

【事務局】

サポセンの事業は、地域を限定せず、一律に実施しており、「事業への参加者がどの地域からどのくらい参加しているか」という数値は把握していない。

和田で活動している団体が、サポセンに関する情報を希望しているのであれば、いつでもご相談いただきたい。

サポセン自体の知名度を上げていかなければならないと思っている。

【委員長】

市内のどこに住んでいても、関心がない方もいる。もっとサポセンの活動を知らせる必要がある。

【委員】

和田地区から佐倉地区や志津地区のポスター展を見に来るのも大変だと思う。和田公民館だったら、近場で気軽に見に来られるのではないか。

子育て講座の時は、「LINEを見て来た」という方もいるので、サポセンのLINEがあっても良いと思う。情報が多すぎると逆に見なくなってしまうという心配もあるが、若い人は見ると思う。

サポセンの「市民公益活動情報サイト」の閲覧数はどのくらいなのか。

【事務局】

リニューアル前は約250件、リニューアル直後は約400件アクセスがあった。リニューアルして半年以上経ち、現在はだいたい月平均300件くらいと思う。

【委員長】

スマホ等がない方も多い。例えば、ポスター展を和田地区で開催してみてもどうか。見に行ってみようとなるのではないかと思う。

【委員】

ポスター展は、駅前やユーカリが丘だけでなく、市内全域で開催した方が良いと思う。市民公益団体の周知には、ポスター展が一番分かりやすいと思うので、ご検討願う。

また、サポセンが意外と知られていない。私も色々な方から「サポセンって何？」と聞かれることが多い。これだけ多くの団体が登録されているのに、まだまだ知られていないのだと思う。サポセンでどういうことをしているのかということアピールしていくと良い。

今、夏休みで、ボランティア活動をしたいという学生たちが多い。高校生や大学生を対象にボランティア講座を実施したり、ボランティア活動の参加者に証明書を受けたりするとよい。ボランティア証明書をもらえるということであれば、市内の学生たちが、団体の活動に参加してくれるのではないか。

ボランティア証明書については、社協等であればすぐに発行できるが、小さい団体は慣れていないので戸惑うと思う。そこで、サポセンが証明書のひな型を作るなど、各団体をサポートすると良いと思う。

【委員】

7月27日に実施された「市民活動デビュー講座」は、今年からの新規事業か。

【事務局】

今年から始めた新規事業である。今回の参加者は3人だった。

最近、サポセンの登録団体が減少しているが、その原因として、「高齢化」「新しい方が入ってこない」「人手が欲しい」という声が挙がっている。

一方、若い人たちに、ボランティアのきっかけの場を作りたく、この事業を企画し、市内県立高校4校（佐倉、佐倉東、佐倉南、佐倉西）の教頭と調整して、チラシを生徒たちに配布した。ボランティアに関心のある生徒、すでにやっている生徒もいる一方、敷居が高いということも聞くので、今後も継続して実施し、ボランティアに参加するきっかけや、市民団体を知るきっかけを積み重ねたい。

【委員】

素晴らしいと思う。若い人の足掛かりを作っていく事業は今後も続けていた
だきたい。

私の推薦母体である団体も、若い人への啓発をやっていこうとしているが、ハ
ードルが高い。市民憲章の構成団体である文化団体・青少年の団体等も高齢化で
どんどん減っている。小学生に対しては、教育委員会を通して「みらいくん」の
下敷き配ったりをしているが、若い人の啓発や構成団体をどうやって育ててい
くのかということとは中々進まない。

【委員】

ボランティアは、やった人が、「楽しい」「達成感がある」「面白い」となって、
継続するものだと思う。「ボランティアは楽しい」と実感するには、体験しないと無理。和田や弥富の人をはじめ多くの市民が、そういう体験をする機会、達成
感を味わえる機会があると良いと思う。

「楽しくて、社会の役に立つボランティア」というネーミングがとても良いと
思った。ぜひ継続、拡大して、中身を濃くして、一人でも興味のある人を増やし
てほしい。

【委員】

やはり（市民活動デビュー講座の参加者が）3人は少ないと思う。

今、高校生はボランティアをすればポイントが付くというようなことがあつ
て、やりたい学生さんも多いと思うので、多くの学生が「こんなことだったらで
きるかな」と思って参加できるように、呼びかけていくのが良いと思う。

高校によっては、ボランティア活動を年間の行事としてスケジュールを決め
ている、と聞いたことがある。急な話は難しいと思うので、早めに予定が立てら
れるようにするとよいと思う。

【委員】

自身の団体の話。コロナが落ち着いてきて、各施設から派遣の依頼が増えてき
ている。今までは大きな施設が多かったが、古民家型の施設からも依頼があつた。
20名くらいの利用者さんがいて、ほとんど要支援から要介護の人だった。（自分
たちが施設へ行くことで）とても喜んでいただいた。その施設に来たボランティ
アは私たちが2つ目ということだった。新しい施設、小さい施設は、ボランティ
ア団体の存在をご存じないのだと思う。

私たち（の団体）も高齢化しているので、いつまで続けられるのかという心配

がある。道具も色々持って行くので、車の運転ができなくなったら活動できなくなるかもしれない。

私は市民カレッジの18期生で、後から入ってきた方たちが23期生くらいまでいるが、その後がない。何か（新規メンバーが入ってくる方法が）ないかなと思っている。

【委員】

私は国際交流基金の日本語学校に所属して、外国人に日本語を教えている。コロナの間に設立して約3年になった。アフガニスタンの子どもたちがとても増えた。アフガニスタンでは、女の子たちが学ぶ機会がとても少ない。14歳の子が、中学3年生の時に引っ越してきて、日本語学校にいたが、3月で中学を卒業してしまった。日本語はできず、アフガニスタンで教育を受けていない。その後生活をどのようにするのか心配。

3か月くらい前に、看護学校の学生が見学に来た。子どもたちに教えているところに一緒に混じり、外国の生徒と一緒に、学生さんたちも学んだ。後日、その学生と先生から手紙をいただいた。「とても役立った。将来自分達が看護師になった時、外国の方たちとどう接したらよいかということを見出すことができた。来年も機会があったらお願いしたい」とご連絡があった。若い方たちに活動を見に来ていただくのは良いことと思った。

【委員長】

皆さんからたくさん貴重なお話が聞けて参考になった。とても貴重なご意見だったと思う。事務局には、委員からの意見を今後のサポセンの運営にできるだけ反映するようお願いする。

以上で議事を終了し、進行を事務局にお返りする。

【事務局】

最後にサポセンのYouTube「佐倉市サポセンチャンネル」をご視聴いただく。

コロナで皆さんが活動しづらい中で、新しい情報提供方法として、YouTubeでの発信を研究し、昨年12月15日に開設した。

公的な機関として情報発信するには、配慮すべき注意事項が多く、動画を完成させるまでに時間がかかったが、現在5本の動画を公開している。

[動画紹介]

【事務局】

何か質問や意見はあるか。

【委員】

自身の団体に紙芝居をやっている。題材は図書館で借りてきた絵本で、声は私たちが入れている。これを動画配信するとしたら、それも著作権に引っかかるか。

【事務局】

詳しくはないが、引っかかる可能性がある。絵を描かれた方に著作権がある。出版社にお問い合わせいただくと良いと思う。先ほどご覧いただいた動画も、実際の曲が使えず、著作権フリーの曲を当てた。曲はレコード会社に著作権がある。使用料を支払えばもしかしたら使えるかもしれないが。

【委員】

サポセンの動画に参加したいが、ガールスカウトは日本連盟に規制されていて、他の団体から発信ができない。

【事務局】

違う媒体でまた紹介できればと思う。

【事務局】

権利関係に引っ掛かって、公開した動画が削除されてしまうこともある。良かれと思って自分たちの活動を広めようと発信したものでも、問題が起きると、活動に水を差してしまうことになる。積極的に、かつ慎重にご検討いただきたい。

今後、サポセンとしては、団体の皆さんがスムーズに情報発信できるノウハウを講座として提供したいと考えている。

(以上終了)

令和5年9月1日

議事録署名人

委員長 山岡 みち代

委員 山城 智依子